『全国木簡出土遺跡・報告書綜覧Ⅱ』の刊行

現在のところ、日本全国から389,357点の木簡の出土が報告されています。今年２月に刊行した、『全国木簡出土遺跡・報告書綜覧Ⅱ』（埋蔵文化財ニュース154号）にちなんで、10年ぶりに集計されました。１冊目の『綜覧』（2004年２月）には、311,184点の情報を収めていますから、この10年で78,000点余りの木簡が出土し、あるいは公表されたことになります。

木簡の出土点数の増加に対応する形で、木簡が出土した遺跡の数も増えています。この10年で、遺跡の数は975から1,378へと、およそ1.4倍に増加しました。その多くは、中世、近世、あるいは近代という、新しい時代の遺跡から出土しています。古代には限らない、木簡＝「文字のある木製品」という広い定義が、定着しつつあるといえるのかもしれません。

『綜覧Ⅱ』は、全国の発掘調査機関、大学等の研究機関、公立図書館等の公的機関のほか、木簡を調査されている全国の調査担当者の方や研究者等1,000名余りに配布されました。現在、公開中のデータベース更新にむけた作業をおこなっています。

先日、本書を手にしたある図書館司書の方から、「似たようなタイトルが多く、書架に並んでいても探しにくい（報告書を）検索するレファレンスツールが充実」したという、ご意見をいただきました。木簡のナショナルセンターとしての奈良文化財研究所は、調査・研究の世界のみならず、社会教育の現場からも期待されているようです。

（都城発掘調査部　山本 崇）

10年ぶりに刊行した綜覧